

10代 の 意見

子ども食堂普及
県内でも支援を

◇子どもに無料、または低

額で食事を提供したり、学習支援を行ったりする子ども食堂が全国で急増しているなか、山梨県における子ども食堂の充足率は全国で6番目に低い8・8%であった、という記事を見た。私は前の年か

ら学校の探究活動で、子ども食堂の実態をテーマに調査やアンケートを重ねてきた。

◇現在、1日に2食しかと

らない「2食」問題や地域のつながりの希薄化が進むなか、誰でも利用でき、食事を通じて礼儀や社会のルールを学ぶことができる子ども食堂は重要な役割を担っていると考えられる。しかし、身近に子ども食堂がないことや、貧困家庭の子どもたちが利用している、といった偏見から、子ども食堂を利用したことのある人は少ない。都留高でも97%の生徒が参加したことがない、という調査結果であった。

ずは、多くの人が実際に子ども食堂へ行き、子ども食堂の良さを感じてもらいたい。
(都留高3年・相沢つかさ)



山梨県立都留高等学校3年 相沢つかさ 様

はじめまして。山梨県子育て支援局子ども福祉課です。

この度、令和2年7月29日の山梨日日新聞に掲載されました、相沢様の「10代の意見『子ども食堂普及県内でも支援を』」を拝見しました。

貴校で行われている探求活動の中で、「子ども食堂」の実態をテーマに研究されていることを知りました。皆様が子ども食堂について綿密に調べ、今の地域社会で子ども食堂という活動が担う重要性についてももしっかり理解をいただいていることに、子ども食堂を担当する部署として大変心強く感じました。

山梨県では、今年7月、子ども食堂と食堂の利用を希望する家庭をつなげることや、子ども食堂を運営する皆様同士のネットワークを広げることなどを目的に、県内の子ども食堂の活動状況を初めて本格的に調査しました。

調査により、県内に30箇所の子ども食堂等を把握することができました。山梨県においても活動が急速に広まってきており、充足率もさらに上がっていくことを期待しているところです。

残念ながら、新型コロナウイルス感染症の拡大により、全国で多くの子ども食堂等が休止となり、県内の子ども食堂も同様に、これまで実施してきた食事を楽しみながら交流できる場所を提供することができなくなりました。子ども食堂の運営者に、再開できない理由を尋ねたところ、食事や飲食を介した感染が全国で拡大していることや、食堂に大勢の方が集まることによりクラスターを発生させてしまうのではないかと懸念されていることが主な要因と判明しました。

しかし、今回の調査により、食堂の代わりに、学校の休業中に余剰となった給食食材や企業、農家の皆様から寄付をしていただいた食材を家庭に提供する「フードパントリー」を実施したり、お弁当やお惣菜を提供したりする食堂が多くあることも分かりました。新型コロナウイルス感染症拡大のなかでも工夫をして活動されていることに、利用している皆様から喜びと安堵の声が寄せられるなど、運営されている団体、個人の皆様には私どもも感謝しております。

県においても、このように活動される方々に向け、子ども食堂の設備整備などに対する補助制度を創設し支援をしております。また、各市町村が地域の実情に応じた取り組みを進められるよう、市町村と連携をしながら、今後も子どもたち

の支援に取り組んで参ります。

最後に、地域の皆様が楽しく集まることができる「地域コミュニティ」としての子ども食堂の良さを、より多くの皆様に感じていただけることを目指し、相沢様をはじめ貴校の皆様には研究を続けていただきたいと思ひます。そして、研究の成果、高校生ならではの御意見を本県施策の参考にさせていただきたく存じます。応援しておりますので頑張ってください。

※子ども食堂の調査結果は、県子ども福祉課ホームページに掲載しております。情報の更新も行っていく予定ですので、今後の研究にご活用ください。

URL:<https://www.pref.yamanashi.jp/kodomo-fukushi/index.html>

令和2年8月7日

〒400-8501 甲府市丸の内1-6-1

山梨県 子育て支援局 子ども福祉課 家庭福祉担当

電話：055-223-1459

メール：kodomo-fukushi@pref.yamanashi.lg.jp